

# 都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成24年第I四半期（1月～3月）

設備投資：横ばいで推移

採算状況：2期連続で改善

資金繰り：横ばいで推移

雇用人員：「不足」感が「過剰」感を上回る

## 《 概要 》

### □設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成24年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は16.0%と、前期（平成23年10～12月）16.0%から変化が無く、横ばいで推移している。

また、来期（平成24年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合は19.0%と、当期実績に比べ増加する見通しとなった。

### □採算状況

当期の採算状況を採算DI（「黒字」-「赤字」）で見ると、▲15.6と前期▲20.9に比べ5.3ポイント上昇し、2期連続で改善した。

### □資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）で見ると、▲28.7と大きく改善した前期▲28.7から変化がなかった。

### □雇用人員

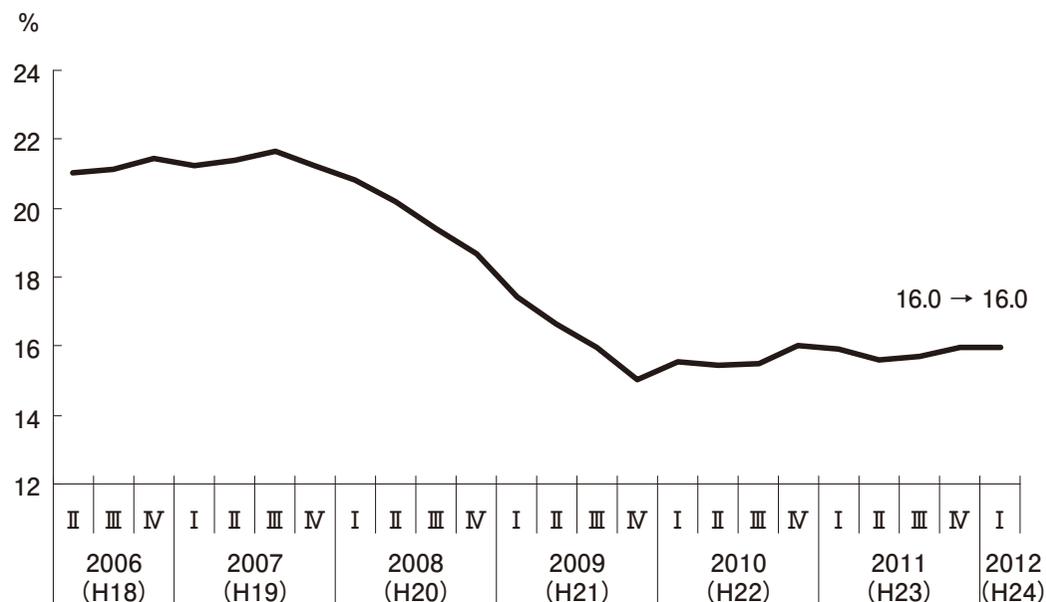
当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）で見ると、1.6（前期1.7）と2期連続して「不足」感が「過剰」感をやや上回った。

## ■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成24年1～3月）に設備投資を「実施した」割合は16.0%と、前期（平成23年10～12月）16.0%から変化が無く、横ばいで推移している。

また、来期（平成24年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合は19.0%と、当期実績に比べ増加する見通しとなった。

図表1 設備投資の実施割合（全体） -後方4四半期移動平均-

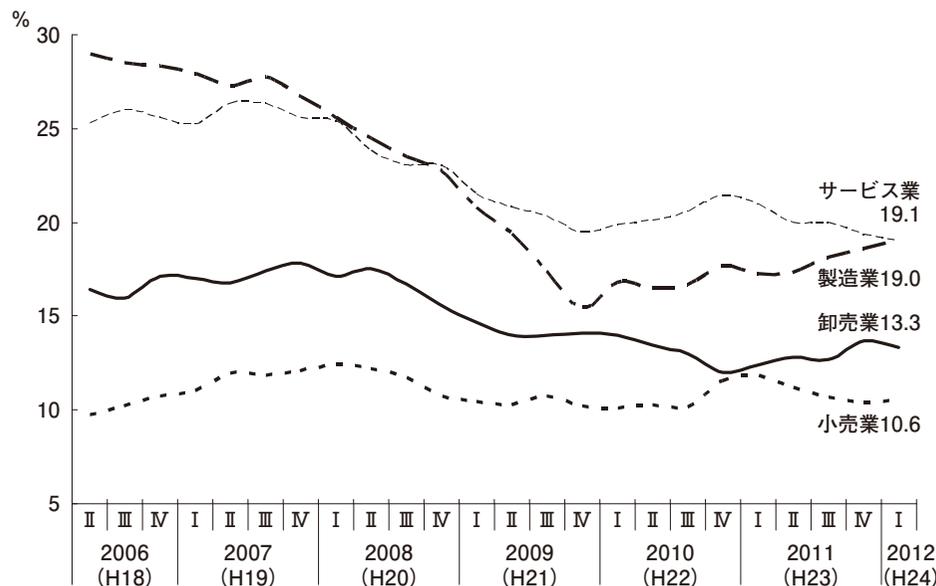


<注>来期（平成24年4～6月）の設備投資の予定については図表には記載していない。

業種別にみると、製造業19.0%（前期18.6%）が4期連続で増加し、最も順調に推移している。卸売業13.3%（前期13.7%）は前期まで緩やかに増加してきたが当期はやや減少した。小売業10.6%（前期10.4%）は緩やかな減少傾向にあったが下げ止まり、サービス業19.1%（前期19.3%）は2期連続で減少しており、業種によって傾向が分かれた。

また、来期（平成24年4～6月）の設備投資の「実施予定」割合は、卸売業のみ13.3%と横ばいの見込みだが、製造業23.4%、小売業16.4%、サービス業22.1%と増加する見込みである。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

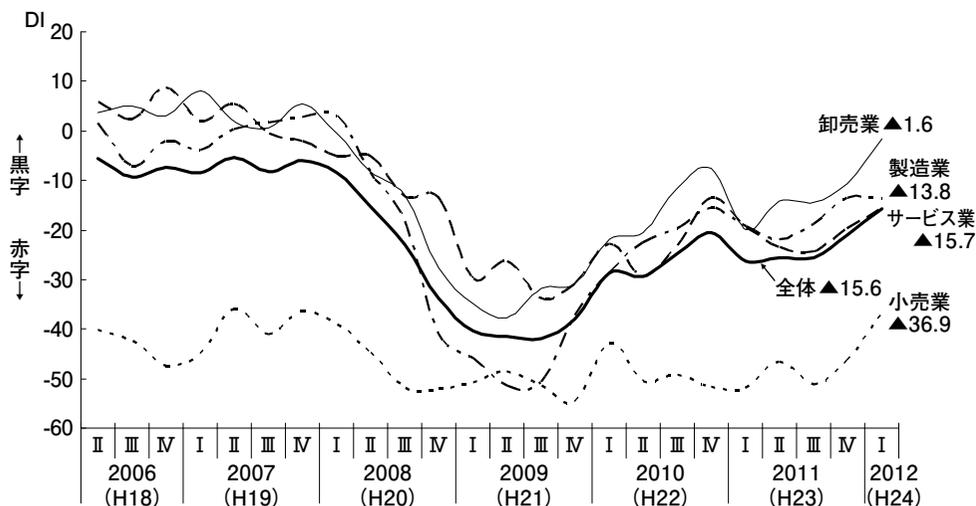


＜注＞来期（平成24年4～6月）の設備投資の予定については図表には記載していない。

### ■採算状況■

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）で見ると、▲15.6と前期▲20.9に比べ5.3ポイント上昇し、2期連続で改善した。

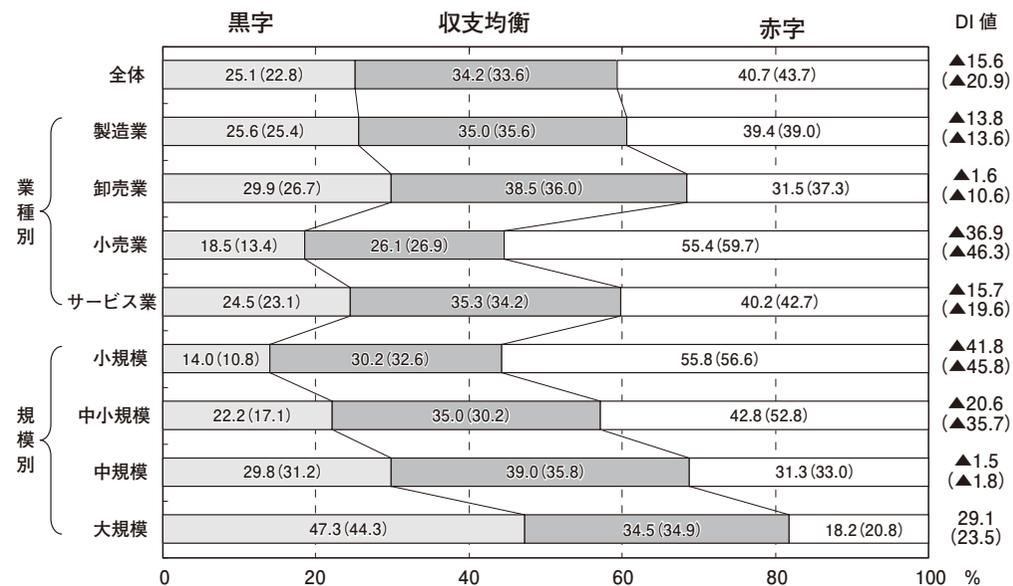
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、卸売業▲1.6（前期▲10.6）、小売業▲36.9（前期▲46.3）、サービス業▲15.7（前期▲19.6）はそれぞれ2期連続で改善したが、製造業▲13.8（前期▲13.6）のみほぼ横ばいで推移した。

規模別にみると、中規模▲1.5（前期▲1.8）は3期連続して、小規模▲41.8（前期▲45.8）、中小規模▲20.6（前期▲35.7）、大規模29.1（前期23.5）はそれぞれ2期連続で改善した。規模によるDI値の差はあるものの全規模で改善が顕著となった。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



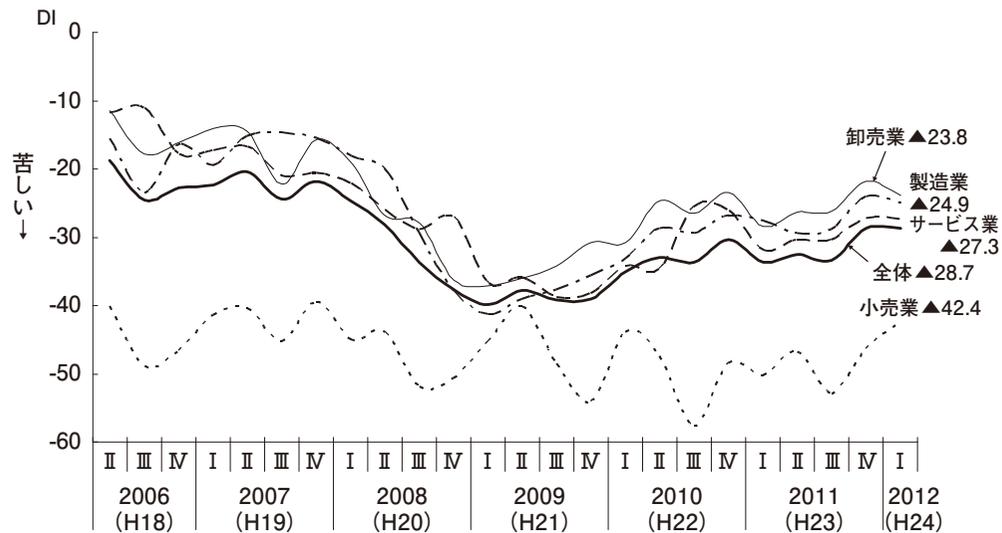
＜注＞カッコ内は前期（平成23年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

### ■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）で見ると、▲28.7と大きく改善した前期▲28.7から変化が無かった。

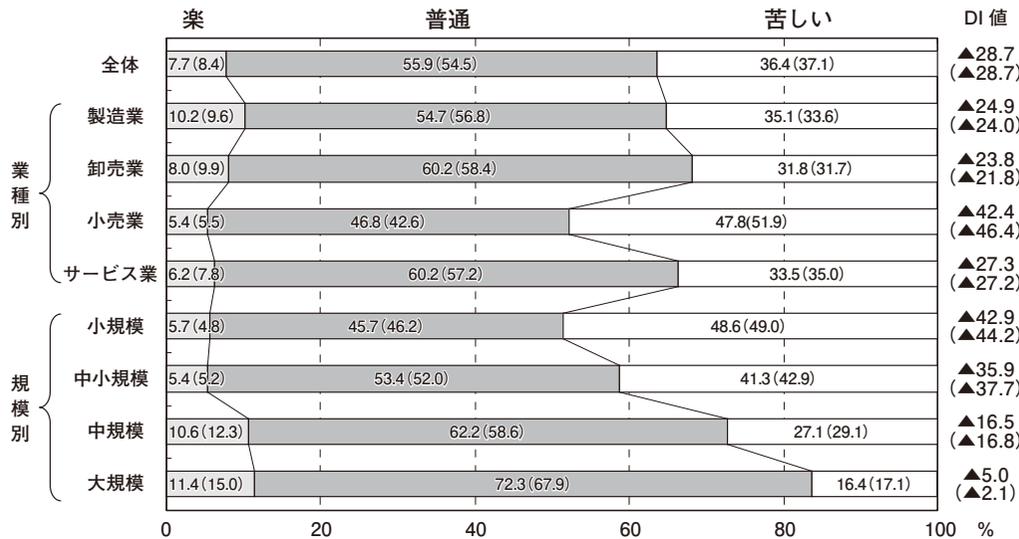
業種別にみると、前期まで改善傾向にあった製造業▲24.9（前期▲24.0）と卸売業▲23.8（前期▲21.8）はそれぞれやや悪化した。サービス業▲27.3（前期▲27.2）はほぼ横ばいで推移し、小売業▲42.4（前期▲46.4）は2期連続で改善したが他業種に比べ水準は厳しい。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみると、小規模▲42.9（前期▲44.2）と中規模▲16.5（前期▲16.8）はそれぞれ2期連続して、中小規模▲35.9（前期▲37.7）は4期連続して改善したが、大規模▲5.0（前期▲2.1）のみやや悪化した。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

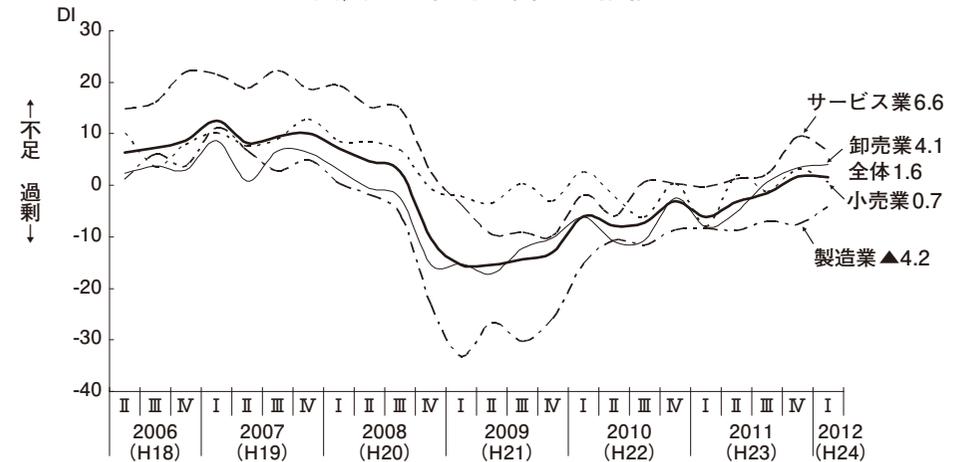


<注>カッコ内は前期（平成23年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、1.6（前期1.7）と2期連続して「不足」感が「過剰」感をやや上回った。

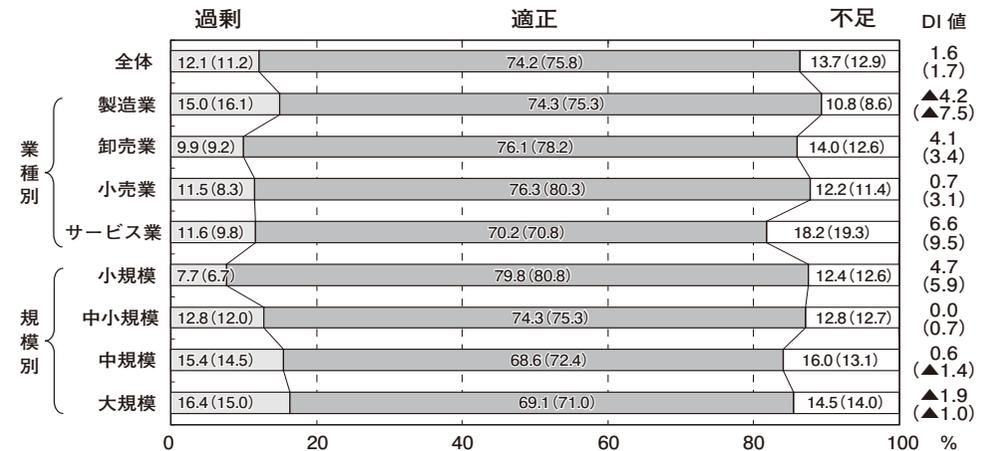
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、製造業▲4.2（前期▲7.5）では「過剰」感がやや弱まり、卸売業4.1（前期3.4）、小売業0.7（前期3.1）、サービス業6.6（前期9.5）の3業種で、「不足」感が「過剰」感を上回った。

規模別にみると、小規模は「不足」感が「過剰」感を上回っているが、中小規模、中規模は均衡に近づき、大規模は「過剰」感の方が上回った。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



<注>カッコ内は前期（平成23年10～12月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。